

学校紹介

埼玉県立 浦和第一女子高等学校

校章



ダイヤ形は円満にして安定していることを意味している。左右の勾玉は「埼玉」を表し、中央に浦和と書き、上に「女」の字を、下に「高」の字を入れることにより、「埼玉県の浦和女子高校」を示している。周囲の形は毎春校庭に妍を競う桜の花弁をかたどっている。

1. 沿革

明治 33 年 設立 埼玉県高等女学校と称す
同 34 年 新設埼玉県女子師範学校に併置
埼玉県立浦和高等女学校と改称
同 43 年 現在地に校舎新築落成移転
昭和 16 年 埼玉県立浦和第一高等女学校と改称
同 23 年 埼玉県立浦和第一女子高等学校と改称
平成 12 年 創立百周年記念式典及び祝賀会举行
同 16 年 スーパーサイエンスハイスクール指定
同 28 年 スーパーグローバルハイスクール指定

2. 本校の特色

本校は、明治 33 年に本県で最初に設置された埼玉県高等女学校をその前身としており、今年度で創立 118 年目を迎える歴史と伝統ある女子高等学校である。

創立以来、本県トップの女子進学校として着実に実績を積み重ね、36,000 名を超える卒業生が国内外の各界で活躍されている。先輩から連綿と受け継がれてきた自主自律の精神。勉強だけではない、もちろん部活だけではない、更には学校生活だけにとどまらない大きく広いフィールドで、自らの力と可能性を思いっきり試していく、伸ばしていく姿勢。そしてお互いに応援し、高め合

う仲間が存在。それが浦和一女の伝統的な姿である。

本校は、目指す学校像を「世界で活躍できる知性と教養、逞しさを備え、社会に貢献する高い志を持った魅力あるリーダーを育成する女子高校」としている。本校生には、知性を磨き人格を陶冶し、将来、世界の平和と繁栄に寄与できるようなグローバルリーダーになる使命があると考えている。本校には、その使命に応えられるよう様々な学びの場が用意されている。

知的好奇心に富み、進学への強い意志と可能性をもつ友人たちに囲まれた毎日の学校生活は、まさに「切磋琢磨」の場。レベルの高い授業はもとより、心身を鍛え友情を育む部活動や生徒会活動に加え、今年度から新たに 4 期目の指定を受けたスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業など、何事にも全力で取り組む校風のもと、生徒は充実した学校生活を送っている。

さらに、昨年度から、生徒の社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決能力等の国際的素養を身につけ、将来、国際的に活躍できるグローバルリーダーの育成を図るスーパーグローバルハイスクール（SGH）にも指定されている。

このように、全国でも数少ない「SSH」と「SGH」のダブル指定によって、日頃から全校で課題探究型学習の研究を進めている。これらの取り組みを踏まえて、本校生は知を探究し、国際社会に向け自らを鍛え、自主的に幅広い活動を行っている。

また、本校はイギリスのジェームズアレンズガールズスクール、台湾の台北市立第一女子高級中学という 2 つの姉妹校を持っており、SGH におけるグローバル教育の一環ということで、これらの姉妹校との交流や現地でのフィールドワークを行っている。こうした事業や 2 学年全員による台湾研修などを通じて、国際感覚豊かな人材の育成を推進している。

3. 数学教育

(1) カリキュラム

1年 SS 数学Ⅰ (3単位) SS 数学Ⅱ (3単位)
2年

理系 数学Ⅲ (4単位) 数学Ⅳ (2単位)

文系 数学Ⅲ (3単位) 数学Ⅳ (2単位)

3年

理系 数学Ⅴ (6単位)

文系 数学探究Ⅰ (2単位)

数学探究Ⅱ (2単位・選択)

(2) 予習→授業→復習のサイクル作りの徹底

導入期指導として、最初の授業時にガイダンスを行い、「学習の手引き」を活用し、予習の仕方や授業の受け方、復習の仕方や副教材の使い方を具体的に指導している。

また、テストごとに誤答訂正ノートを作成させ、誤答の分析や類題演習を課して提出させ、テストを受けっぱなしにしない指導を行っている。

4 数学科

高校で楽しく数学を学ぶには、どんなことに気をつけたらよいのでしょうか？
一女の数学を、次にあげるポイントで説明しましょう。

(1) 予習 (2) 授業 (3) 復習 (4) 単元テスト・定期考査 (5) ノート

(1) 予習について

数学が得意になる秘訣は予習することです。予習をしないで授業に臨むのは新鮮であるかもしれませんが危険です。「予習してもわからないのですが…」
わからなくていいのです。予習して教科書が理解できるなら、それはスゴイ能力です。わからないところを見つけることが大切。授業ではどうやって説明するのかという楽しみがあります。

「予習の仕方がわからないのですが…」
その時間にやりそうところを解くだけでいいのです。わからないときはその周辺の例題や説明を参考にして考えるのです。それでもわからないときはマークしておいて次に進んでいいのです。

「予習する意義はあるのですか？」
授業にメリハリがつけます。50分60分もずっと集中しているのはいくら疲れても大変。集中するところと軽く流すところがあるといい。わかっていないときはリラックスして聞けるし、演習や板書のスキマには問題集に取り組むことができます。

実はこれがいかに大切なことか、初めての内容を自力で読み理解する…ということをやれば、将来大いに役に立ちます。論文や文庫を読む力がつけます。近未来的にいえば、見たことのない入試問題に直面してもじっと考える力がつけます。毎日の少しずつの予習がどんなに力をつけることでしょうか。

(2) 授業について

- 先生の説明は注意深く聞く。
高校の授業では、重要なポイントは先生が板書ではなく口頭で説明することも多くあります。板書に気を取られて肝心の説明を聞き逃すことのないよう注意しましょう。
- 先生の説明の要点は必ずメモをとる。
板書以外の説明もしっかり注意してノートに取るように心掛けましょう。問題を解く着眼点や発想などは、板書の中でなく、説明の中にあるかもしれません。
- 問題は必ず自分で解く。
授業中に解く問題は、その授業が理解できたかどうかを試すチャンスです。教科書・ノートを参考にしながら、必ず自分で解く努力をしましょう。
- 正しい解き方を確認する。
似た問題の答え合わせをして、正しい解き方を押さえましょう。何も見ないで確実な解き方をしていくことが大切です！

(3) 復習について

中学校では、授業時間中をえいっけり集中していれば、授業についていくのにそれほど苦労しなかったかもしれません。しかし、覚えるべきことの質や量がレベルアップした高校の学習内容を完璧に理解するためには、授業だけでは不十分です。その日の授業内容を理解できたかどうか確認しておきましょう。また高校の授業の進むスピードは、中学校とは段違いです。そのため、ほんの少しの「わからないこと」が、あっという間に手のつけようがないほど蓄積してしまいます。疑問点は早めに解決しておきましょう。

- 宿題は必ず自分の力で取り組む。
- 授業で扱わなかった問題にも挑戦する。問題集は授業前だけでなく普段から取り組んでおく。
- 解けない問題にも教科書・授業ノートを参考にして、粘り強く取り組む。
- どうしてもわからないときは、どこか、気がつかないのかを明らかにして、先生に質問するポイントを整理しておく。



「学習の手引き 1 学年」より

(3) 授業の進め方

予習を前提としつつも、基本的なことから積み上げていくように指導している。予習をやってきた意味を感じられるように、例・例題を全部は説明しないで、問をその代わりとして説明し、傍用問題集を使って授業中に問題演習をさせたり、指名して板書させたりしている。毎日の復習で傍用問題集をしっかりとやらせ、副教材の参考書を1年次から活用させる。傍用問題集の問題を精選するなどして達成感を味わわせながら、数学が好きになるように心がけている。

(4) 実力養成講座

希望者に対して、1年次から早朝(7:30～8:20)に週1回の実力養成講座を実施している。本校の生徒にプラスアルファで身につけさせたい問題を精選し、例題解説と演習のページからなるオリジナルテキストを作成・使用している。本校の最大教室の定員(視聴覚室 定員130名)を超える受講申し込みがあり、週2回同じ講座を実施したこともあるほどニーズがある。

実力養成講座は、長期休業中にも実施され、ハイレベル講座や基礎講座、3年生では分野別講座も実施している。また、3年生の12月からは答案作成指導として過去問の添削指導を行い、生徒が「予備校・塾に頼らない」、「一女の授業で実力をつける」ように様々なサポートを行っている。

(5) 「一女プリント集」の活用

3年生の授業では文系も理系も受験問題集を使った授業を行っている。授業内容を深めるため、問題の背景や他分野との関連・別解などをまとめた、本校のオリジナル参考書「一女プリント集」を活用して演習授業を行っている。副教材として使用している参考書との関連も示し、生徒からは「わかりやすくまとまっていて使いやすい」と好評である。

(6) SSHと関連して

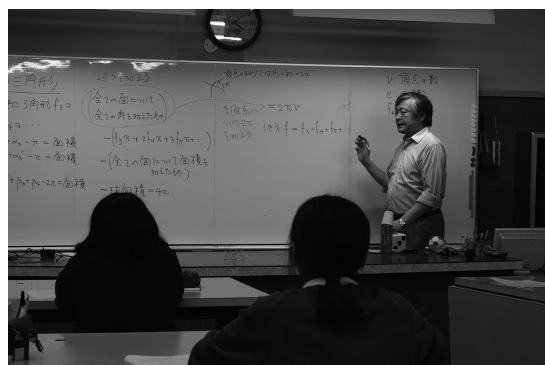
平成16年度から指定されているSSHが、今

年度から4期目5年間の継続指定を受けた。これは本校のSSHが高い評価を受けているからである。今年度から本校のSSHは、SS科目や総合学習の時間に行う「SS探究Ⅰ」・「SS探究Ⅱ」で全員が行う内容と、放課後のSSHの時間に選択者が取り組む内容に分かれる。

「SS数学Ⅰ」や「SS数学A」では、データの分析や場合の数・確率、整数などの単元で課題解決型の探究活動を実施する予定である。

「SS探究Ⅰ」では、大テーマを「科学技術を使って持続可能な社会を作る」とし、数学を含む各科目で小テーマを設定し、小テーマごとにクラス横断的にグループを作る。協調学習の手法を用い、各グループでエキスパート活動を65分×2回行い、それをもとにジグソー活動を行うことにより、環境・気候変動、資源・エネルギー問題等に対する課題発見を行う。その後の探究活動で、課題に対する解決策を提案するというものだ。

選択者を対象とした取り組みの数学関連の内容として、「SSH特別講義」では、H27年度は東京大学大学院数理科学研究科 寺杣友秀教授による「トンガリ度、ハリオットの定理とオイラーの定理」が行われた。生徒は、本校教諭による事前のプレ講義で予備知識等を学習した後で、寺杣先生の講義を受けた。



寺杣先生による「SSH特別講義」の様子

「SS数理科学」の授業では、H27年度に数学が担当した内容は次のようである。

① 重心の座標について：「一様な材質の半円板の重心の位置」の計算を通して、“離散的”な計算から“連続的”な計算へ、積分の果たす役割を

学ぶ。

② 母関数について：「隣接3項間漸化式」と「隣接4項間漸化式」を、母関数を利用し解くことで統一的な漸化式の解法を学ぶ。

4. SGHの取り組み

本校では「未来のための『女性学』探究プロジェクト」というテーマで、女性ならではの視点でグローバルな課題を探究する活動を行っている。1年生の総合学習の時間における「SG探究の時間Ⅰ」では、社会において女性の置かれた現状や女性の役割についての課題研究を実施し、女性としてのキャリアの積み方のモデル研究を行う。また、2年生では、「SG探究の時間Ⅱ」でグループ別にテーマごとの探究活動を行う。

「SG探究の時間Ⅰ」で、東京大学大学院から本校のOGを講師に迎え、グローバルリーダーとしての進路選択について話を伺うとともに、ハーバード、スタンフォード、ケンブリッジなどの世界でもトップレベルにある大学の学生男女比はほぼ1：1なのに日本を代表する大学であるはずの東京大学の女子学生の比率が2割程度なのはなぜなのかについて考察を行った。下の写真は東京大学大学院数理科学研究科の本校OGによる、数学がどのように社会と結びついているのか、あるいは数学研究の現場についての講義の様子である。高校での学習が大学に結びついていること、学問系統はつながっていて、研究には文系も理系もないことなどについても話があり、生徒へのインパクトは大きかったようだ。



本校OGの東京大学大学院生による講義の様子

(文責 浦和第一女子高等学校教諭 山崎孝美)